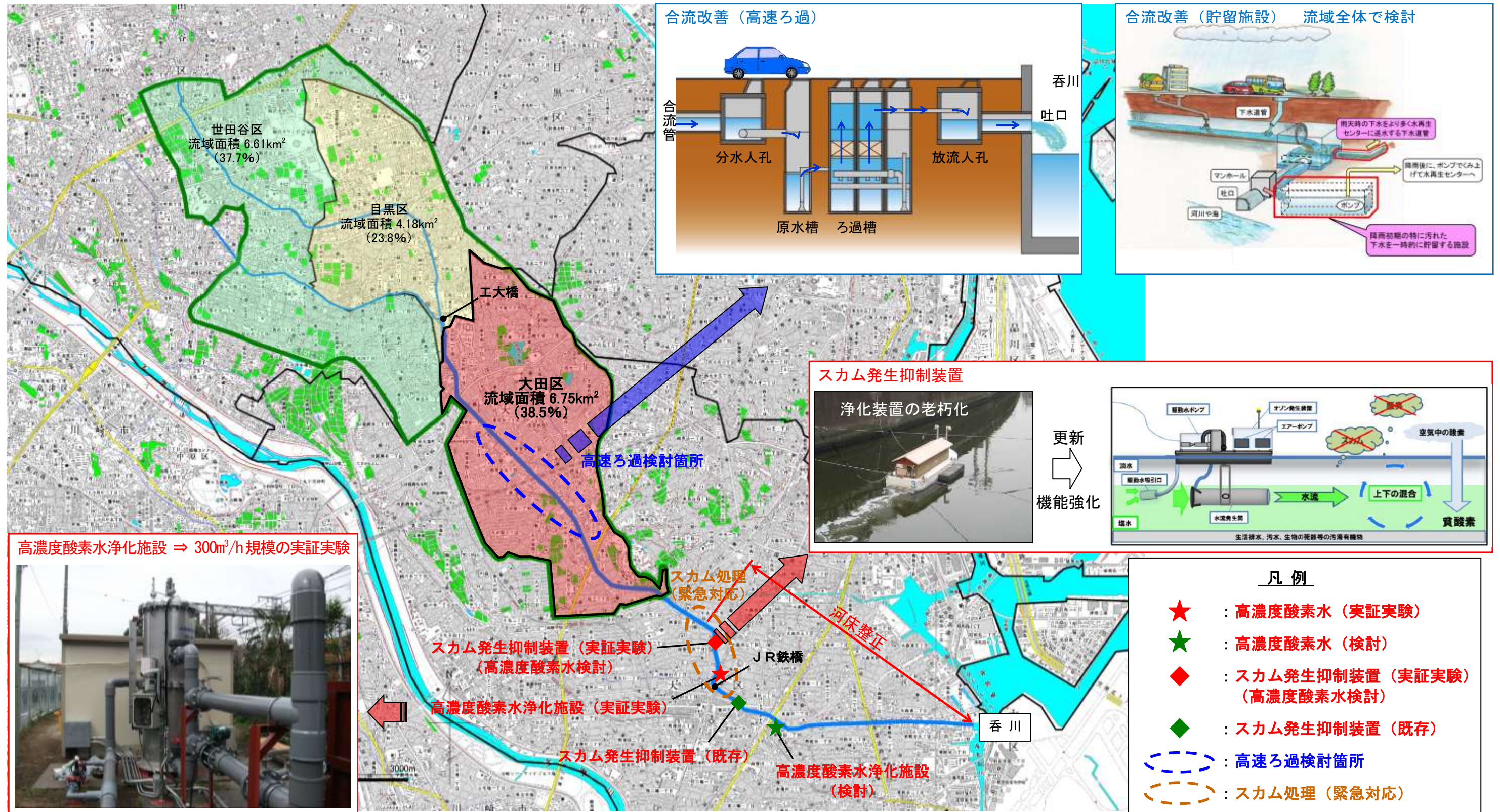


# 平成25年度 呑川水質浄化対策研究会での取り組み内容について

## 【総合的な水質浄化対策の基本方針】

- 下水道の合流改善により、呑川に流入する汚濁負荷を軽減する。
- 下水道の合流改善は、東京都や流域自治体（目黒区・世田谷区）との連携が必要であり、長期間を要するので、短・中期的な対策もあわせて推進する。
- 合流改善までの短・中期的な対策として、スカム発生抑制装置によりスカムの抑制を図り、高濃度酸素水により水質を改善する。
- 河床整正により、汚濁物質が溜まりにくい河床形状とする。また、スカム等の原因となる汚濁物質も河床整正により除去する。
- 雨水浸透ますや透水性舗装など貯留・浸透施設の整備、湧水や池水などの有効活用による水源確保を推進する。
- 発生したスカムは、悪臭の原因となるので、バキュームによる吸引や船による攪拌など緊急的な対応を行う。
- 水質調査や改善効果の予測等により、総合的な水質浄化対策による改善効果を検証する。



# 呑川水質浄化対策

短期〔平成26～28年度〕

中期〔平成29～31年度〕

長期〔平成32年度以降〕

## > スカム発生抑制装置

老朽化した施設の更新  
実証実験（1基）

本格稼働（1基）

効果検証・本格稼働  
（高濃度酸素水・合流改善等の状況を踏まえ規模検討）

## > 高濃度酸素水による浄化施設

300m<sup>3</sup>/hの実証実験に向けた  
計画・設計・協議・工事（1箇所）

実証実験（1箇所）

効果検証・本格稼働の計画

本格稼働  
（合流改善等の状況を踏まえ規模検討）

## > 河床整正

暫定計画・設計・協議

河床整正の実施  
（都の防潮堤耐震補強工事との調整必要）

河床の状況を踏まえ調査・施工

## > 貯留施設

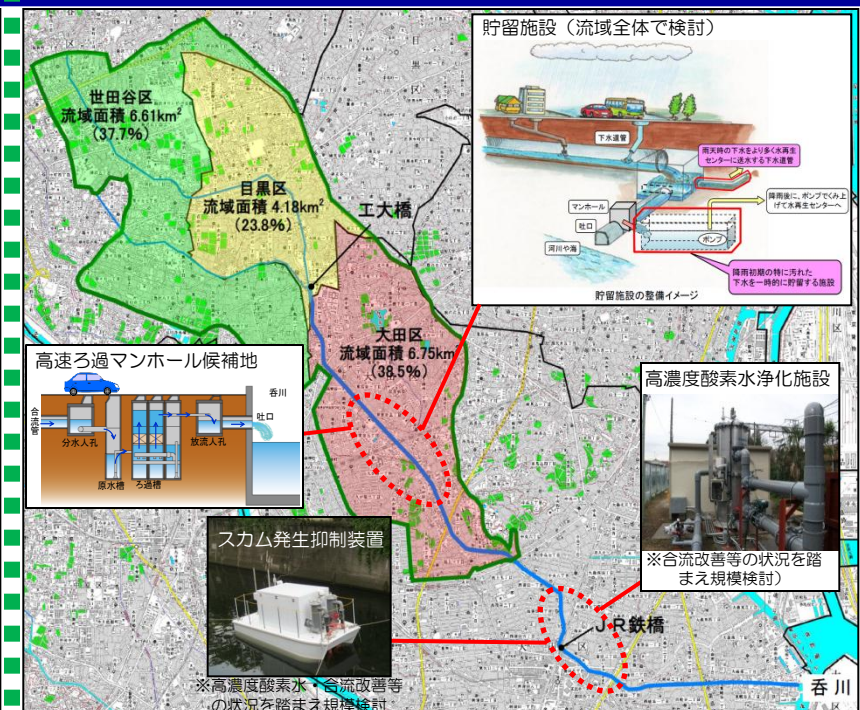
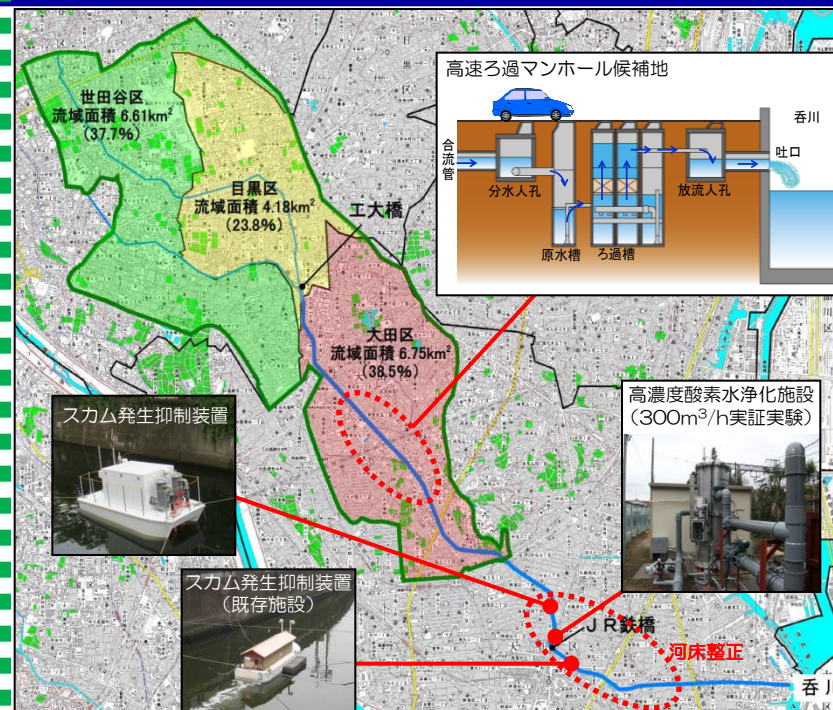
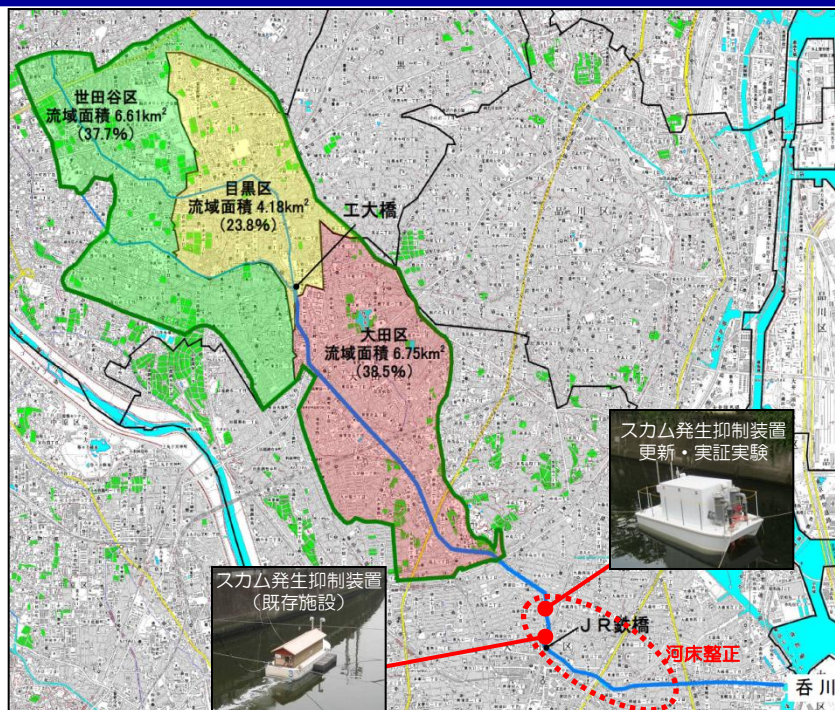
調査・設計・工事・供用

## > 高速ろ過マンホールシステム

調査・設計・工事

供用・効果検証

供用



河川対策

下水道対策

整備イメージ